



心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校 学校だより 第7号
学校教育目標 「自ら考え進んで行動する生徒」
令和7年11月17日(月)発行 文責 菅谷 和孝



(\leftarrow HP)

「守破離」

校長 菅谷和孝

先日(11月6日)、本校の合唱祭が今年度も「コピスみよし」にて開催されました。講師には三芳中学校の時葉教頭先生をお招きし、各クラスに対し、とても心ある温かなメッセージと講評を頂戴しました。どの学年もどのクラスも一生懸命練習した成果を発揮することができ、どのクラスも素晴らしい、甲乙つけがたい演奏でしたが、芸術の審査を行っていることから、優秀クラスを選出しなければなりません。スポーツのように、得点やタイムで明確に分かるものではないので結果として発表するのはとても難しいです。どのクラスも紙一重の演奏であることは間違いません。今年度の優秀クラスは11月12日に開催された町内音楽会に出演し、小学生の前で素晴らしい演奏を披露してくれました。ただ、優秀クラスに選ばれなかったクラスも、本気で練習してきましたぞ感じられる達成感を得た表情をしており、充実した練習期間を過ごしてきたのだと、うれしくも感じました。この経験を一時の時間に留めず、これから学校生活に生かしてほしいと思います。

さて、今回は「守破離」という言葉についてお伝えいたします。この言葉は日本の茶道や武道などの芸道・芸術における修業のプロセスを示した言葉です。師弟関係のあり方や、個人のスキルが成長していく段階を3つのステップで表しています。この考え方には、もともと茶道を大成した千利休の教えをまとめた『利休道歌』にある、「規矩作法 守り尽くして破るとも 離るるとしても本を忘るな」(規矩作法(きくさほう)を守り尽くし、それを破ることがあっても、離れることがあっても、根本にある精神を忘れてはならない)という歌が由来とされています。

<守(しゆ)>基礎・基本を忠実に守る段階。

この段階は、先生や先輩の教えや、教科書・マニュアルに書かれていることをそのまま実践する時期。最も大切で、これを飛ばすと後の成長が難しくなる。基本動作の反復と正確性が最優先。キャッチボールができなければ野球(試合)はできない。四則計算ができなければ方程式も解けない。まずは基本を十分に! 基本をつくること、言わわれたことは最低限守りなさい。

式も解りない。まゝは基本を大切にし、工具をつくること。言ひついこことは最低限実行する。
＜破(は)＞「守」の段階で基本が身についたら、次は自分なりに試行錯誤を加え、より良い方法を模索する時期。

既存の知識をベースにした工夫と効率の改善。結果が出ているかを検証しながら進める。基本の殻を破って、更なる道を切り開いていく。ただし、先の「守」を身に着けていなければ暴走に陥ってしまう。状況に応じた調整や他の方法論の研究が中心となり、基本から外れていないかなど、常に先生や先輩に確認することが大切。言われたことプラスαな行動ができる。**<離(り)>型**から離れ、独自のものを確立する段階。

自分自身が極める域に近づき、独自のスタイルや哲学を確立する時期。自己の確立。基本を基盤としつつ、環境や個人の特性を超越したパフォーマンスを発揮する。既習の知識を応用し、誰も解いたことのない問題や新しい課題に対して、独自の論理で解決策を導き出す。言われる前に、指摘される前に考え行動する

学習においても、部活においても、委員会活動においても、様々な仕事においても、この考え方はとても大切です。今回の合唱練習で考えてみると、まずは合唱曲を与えられ、音程を図りながら基本的な練習を繰り返す(守)。次に歌詞のイメージを捉え、先生やパートリーダー等に確認しながらよりよい合唱していく(破)。最後に、自分たちで課題を捉え、その課題をどのようにしたらよりよいものになるのかを考え、各々が積極的に意見を出しながら、唯一無二の合唱を完成させる。といった感じかもしれません。

これから1年生はスキーライド。2年生は修学旅行。3年生は受験(験)と大きな挑戦が待っています。自分を軸とした「守破離」。クラスや学年を軸とした「守破離」。その先にある目標や夢に向かっていく「守破離」。まさしく、藤中アクション【Next one「一つ先」 Another one「もう一つ」 More over「さらにその上】への挑戦が大切だと思います。

「何をしてもらうか」ではなく「何ができるか」を考えて行動すること。環境や他人のせいにせず、「聞いてない」ではなく「聞こう」とすること。「知らない」ではなく「知ろう」とすること。「分からないではなく」「分かろう」とすること。「出来ない」ではなく「やろう」とするなどの姿勢こそが、最終的にオリジナル溢れる唯一無二の皆さんのが確立していくのだと思います。

先日の校長講話で、「『〇〇でいい』ではなく『〇〇がいい』と言われるような生徒を目指してほしい」という話をしました。合唱祭の練習時間を通じて成長した力を一層向上させ、あらゆる課題に対しても主体的に取り組んでいってほしいと思います。

守破離